

新型コロナウイルスの収束を世界中の人々が願っておりますが、未だ中々解決への道筋が見えない状況です。

今年の栃木県ジュニアピアノコンクールも中止せざるをえない状況となり本当に悲しい思いを致しております。皆様も同じ思いでいらっしゃるかと拝察いたします。毎日誠実に音楽の勉強を積み重ね、成長し、発表し皆様で音楽を共有する。その様な機会を来年こそは！と思って、とちぎ未来づくり財団、審査員の先生で話し合っておりますので、来年以降のコンクールへのエントリーをよろしくお願いいたします。我々も皆様の演奏を聴ける日を楽しみに待ちます。以前も書きましたが、これからは担う子供達の大切な心の栄養となり得る文化・芸術に親しむ機会を、コロナがどんどん奪っていることにとっても憤りを感じます。しかし悲しんでばかりはいられません。私たちは前に進まなければなりませんね。皆様でまた音楽を大切に育んで行きましょう！

さて、1月24日に予定しておりましたレクチャーコンサート、栃木県の「緊急事態宣言」発令に伴い延期となってしまいましたが、8月7日に開催していただけることとなりました。大変嬉しく思っております。有意義なものになるようにと準備を進めておりますので是非ご参集ください。

レクチャーコンサートの前半は、「～ピアノ教育にも特に力を注いだ3人の大作曲家～」と題しまして、J.S.バッハ、R.シューマン、B.バルトークを取り上げ、演奏を交えお話し致します。短い時間ではそれぞれの作曲家について多くは語れませんが、作曲家に興味を持っていただけなきっかけになればと思っております。

レクチャーコンサートの後半は、ピアノを学ぶ上で欠かせない作曲家の中から、3人を選びました。W.A.モーツァルト：ピアノソナタ イ長調 KV331 「トルコ行進曲付き」、F.ショパン：3つのマズルカ 作品59、C.ドビュッシー：映像 第2集を演奏致します。

今回取り上げました作曲家達が生きた時代は、急激に変化する社会の中、科学、医学においては今程発達しておりませんし、明らかでない難病も多く不透明なものであったと思います。しかしその中で生み出された音楽作品は、今を生きる我々にも多くの希望と光を与え続けてくれます。その大きなエネルギー持ち魅力溢れる音楽の世界の一端を皆様にお伝えできればと思っております。